

共生の時代を拓く、いわて女性研究者支援

(実施期間：平成 22～24 年度)

実施機関：岩手大学（総括責任者：藤井 克己）

プロジェクトの概要

(1) 女性研究者のための具体的な取組

推進室および推進委員会を中心に、女性研究者のライフステージごとの取り組みを次のように行う。

- ① 女性研究者の育成・裾野拡大(小中高校生向けセミナー、博士課程に進学する女性大学院生への奨学制度の実現、女性研究者や大学院生による出前授業など)
- ② 女性研究者支援(定着支援及び応募率向上のための両住まい手当の新設、学内保育スペースの設置、地域と連携した学童保育支援、ワーク・ライフ・バランス相談室の設置等)
- ③ 意識改革(男性教職員や管理職に対するポジティブアクションとして男性の育児休業取得支援や、「次世代育成支援休暇」の新設、各種の講演会や広報活動等)

(2) 期待される効果

ライフステージに対応した女性研究者支援システムの構築により、女性研究者の裾野の拡大や女性研究者の定着や採用率の向上が実現し、女性研究者の増員につながる。また、本プログラムは地域住民や学生教職員から成るサポーター組織の支援も得て推進し、参加したサポーターの意識改革も進めるとともに、各種講演会等も地域と連携して実施し、地域へ様々な情報を発信する。これによって、学長宣言が実現され、岩手大学に学長が考える共生社会が形成されるとともに、地域のリーダーとして、地域の活性化へも貢献できる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	システム改革	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
S	a	s	s	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

様々な研究環境整備に加え、女性限定教員公募や上位職階の女性教員の採用を進める「One-Up 公募制度」といったポジティブ・アクションの実施により積極的に女性教員の採用を進め、また、「両住まい手当」といった地域の大学の課題を考慮した特色ある取組等により女性研究者の離職を抑制した。さらに、自然科学系の大学院博士課程へ進学する女子学生比率も大幅に増加しており高く評価できる。

- **目標達成度**：女性教員在職比率や自然科学系大学院博士課程への女子学生進学率等、所期の目標をほぼすべて達成しており評価できる。今後は、任期を付さない職による理系の女性教員の採用の増加を期待する。
- **取組**：女性研究者のニーズに即した保育支援、研究支援者の配置、「両住まい手当」の支給、また、女性限定教員公募や「One-Up 公募制度」といったポジティブ・アクション等、他機関への波及効果の高い取組を実施し成果を上げており高く評価できる。
- **システム改革**：ポジティブ・アクションが有効に機能し、女性研究者の採用が着実に増加した。また、自然科学系大学院博士課程における女子学生在籍比率の向上等、次世代育成の取組の成果が見られており、高く評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、副学長を室長とする専任スタッフを配した男女共同参画推進室を事業実施母体として、充実した体制で事業に取り組んだ。執行部によるトップダウンのみならず、教職員からのボトムアップも意識して事業を推進したことも評価できる。
- **実施機関終了後における取組の継続性・発展性**：機関の中長期的行動計画に、事業で実施した女性研究者支援の取組の継続を定め、十分な予算を確保している。また、男女共同参画推進室の専任スタッフを雇用継続し、事業実施期間中に実施したすべての取組を継続して実施しており高く評価できる。